

平成 27 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理方法，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（人数，平均点及び標準偏差，学校平均点の分布状況，設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（問題のねらい，問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

<検索用キーワード>

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析

研 究 会 委 員

愛知県立春日井高等学校教諭	口ノ町由美子
愛知県立長久手高等学校教諭	杉 山 一 朗
愛知県立東郷高等学校教諭	内 山 真 一
愛知県立一宮北高等学校教諭	得 永 優 子
愛知県立岡崎北高等学校教諭	広 瀬 八 重 子
愛知県立岩津高等学校教諭	荻 窪 雄 太
愛知県立幸田高等学校教諭	木 藤 邦 雄
愛知県立安城南高等学校教諭	高 野 純 子
愛知県総合教育センター教科研究室長	米 津 明 彦（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理方法	56
3 調査結果の概要	57
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	60

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和 29 年以来継続して実施し、平成 27 年度で 62 回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- | |
|----------------------------|
| (1) 中学校と高等学校の連携資料 |
| (2) 高等学校第 1 学年における指導上の参考資料 |

2 調査の実施及び処理方法

調査の実施は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題の作成及び報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターの研究調査事業「高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）」において行った。

(1) 実施の時期

平成 27 年 3 月下旬から 4 月上旬までの間に、新入学生徒英語学力調査の参加校において実施した。

(2) 実施状況

課程	年度	平成 27 年度		平成 26 年度		平成 25 年度		平成 24 年度	
	学科数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
全日制	普通科	104	28,108	105	28,214	105	28,121	104	27,904
	総合学科	6	1,478	5	1,237	6	1,476	5	1,232
	商業科系	7	783	7	783	6	517	6	512
	家庭科系	12	695	14	745	13	688	13	712
	英語科系	4	167	4	172	3	159	3	155
	他の学科	13	791	12	825	12	798	12	790
定時制		0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		146	32,022	147	31,976	145	31,759	143	31,305

(注 1) 表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

(注 2) 「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

(注 3) 「英語科系」は、国際教養科及び英語留学コースである。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校新入学生徒を対象とするものであり、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を調査し、各学校において指導計画を作成する際の参考資料を提供することを目的にしている。このために、中学校での既習事項がどの程度定着しているかを、学習内容ごとに調査した。

問題作成に当たっては、次の点に留意した。

ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。

イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。

ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 調査統計事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

ア 平均点 イ 得点分布表 ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の 10%を抽出）

エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

【表1】は、調査対象 32,022 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差）

【表1】

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体	4,392	6,423	5,380	4,230	3,528	2,936	2,534	1,828	718	53	32,022	65.5
%	13.7	20.1	16.8	13.2	11.0	9.2	7.9	5.7	2.2	0.2	標準偏差	22.2
普通科	4,271	6,124	4,903	3,665	2,908	2,291	1,924	1,399	586	37	28,108	67.3
%	15.2	21.8	17.4	13.0	10.3	8.2	6.8	5.0	2.1	0.1	標準偏差	21.8
総合学科	15	117	207	237	233	277	236	130	24	2	1,478	53.3
%	1.0	7.9	14.0	16.0	15.8	18.7	16.0	8.8	1.6	0.1	標準偏差	18.7
商業科系	12	58	123	139	153	126	102	50	17	3	783	55.1
%	1.5	7.4	15.7	17.8	19.5	16.1	13.0	6.4	2.2	0.4	標準偏差	18.5
家庭科系	1	19	54	95	133	139	127	96	26	5	695	46.6
%	0.1	2.7	7.8	13.7	19.1	20.0	18.3	13.8	3.7	0.7	標準偏差	17.5
英語科系	73	54	23	12	3	1	1	0	0	0	167	85.0
%	43.7	32.3	13.8	7.2	1.8	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	標準偏差	11.3
他の学科	20	51	70	82	98	102	144	153	65	6	791	45.9
%	2.5	6.4	8.8	10.4	12.4	12.9	18.2	19.3	8.2	0.8	標準偏差	21.9

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成 27 年度学力調査結果に見られる新入生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音問題 正答率 59.8% 【2】語彙問題 正答率 49.6%）

ア [u:] と [u], [θ] と [ð] などの紛らわしい発音の区別ができない。また、発話や応答において、強勢を置いて伝えるべき情報を意識できていない。

イ raise や spend などの指示や質問の際によく使われる語であっても、それらの語を用いて適切に表現することができない。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 63.9% 【4】文法・表現問題 正答率 71.4%）

ア 文の前後関係に応じて接続詞を適切に用いることができない。

イ 対話の内容に応じて適切に表現することの苦手な生徒が見られる。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 83.9%）

基本的な会話表現はよく定着しているが、誘いを受けたり断ったりする場面において、適切な表現で応じられないことがある。

(4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 60.9%）

疑問詞+to 不定詞や It is ~ for 人 to 不定詞の構文を用いた表現はよく定着しているが、間接疑問を用いた表現に誤りが多い。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 60.5%）

情報を断片的に捉えてしまい、場面の状況や登場人物の行動などを整理しながら、全体の話の展開を正確に捉えられない。

(6) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 75.5%）

聞き取った内容から必要な情報を整理して正確に理解することができない。

5 統計資料

(1) 人数、平均点及び標準偏差

【表2】は、人数、平均点及び標準偏差の推移をまとめたものである。平成27年度は、昨年度と比較して、調査校全体で平均点は14.3点上昇し、標準偏差は1.2ポイント下降している。

人数、平均点及び標準偏差の推移

【表2】

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人 数	30,555	30,474	32,015	31,050	30,914	31,305	31,759	31,976	32,022
全 体	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2	65.5
標準偏差	22.4	23.2	21.4	25.0	23.6	23.2	24.1	23.4	22.2
普通科	62.0	57.1	58.5	63.0	64.0	63.2	59.0	52.9	67.3
標準偏差	22.0	22.7	21.2	24.5	23.1	22.7	23.9	23.4	21.8
総合学科	42.1	35.1	42.7	43.9	44.7	44.9	41.5	40.0	53.3
標準偏差	17.3	16.0	15.9	20.5	19.1	19.5	18.1	16.9	18.7
商業科系	43.6	34.3	40.9	42.9	44.3	43.1	40.0	38.7	55.1
標準偏差	15.3	15.0	14.1	19.0	16.9	16.8	16.0	15.4	18.5
家庭科系	43.7	37.0	40.3	38.9	43.3	41.8	38.1	31.9	46.6
標準偏差	18.4	15.5	15.9	19.7	19.0	18.4	16.9	15.6	17.5
英語科系	77.0	74.5	71.8	78.2	81.1	77.3	79.4	73.5	85.0
標準偏差	15.8	18.5	17.6	20.1	15.0	17.0	16.1	17.5	11.3
他の学科	42.0	31.1	35.0	37.8	40.1	40.3	37.6	34.6	45.9
標準偏差	20.1	19.4	19.3	21.3	20.5	21.1	20.1	19.2	21.9

（注）平成21年度については、約10年前の生徒の学力との比較のため平成11年度を中心とした過去の問題を使用した。

(2) 平成27年度学校平均点の分布状況

【表3】は、学校平均点の分布状況をまとめたものである。同一学科の学校間で相当の得点差が見られる。なお、普通科における学校平均点較差（最高点－最低点）は、74.4点（最高点93.9－最低点19.5）となっている（【表4】）。

学校平均点の分布状況

【表3】

得点域	-90	-85	-80	-75	-70	-65	-60	-55	-50	-45	-40	-35	-30	-25	-20	-15	-10	-5	合計
全 体	7	7	12	12	11	12	6	16	12	8	9	9	9	9	1	1	0	0	141
普 通 科	6	7	11	10	9	10	2	11	10	5	5	3	6	5	1	0	0	0	101
総合学科	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6
商業科系	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	7
家庭科系	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	3	0	1	0	0	0	0	11
英語科系	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
他の学科	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	1	2	2	3	0	1	0	0	13

（注）受験者数10名未満の学校（学科・コース）は含まれていない。

普通科における学校平均点較差（最高点－最低点）の推移

【表4】

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
得点差	74.0	72.1	72.4	78.1	76.0	74.9	77.2	74.0	74.4

(3) 設問別正答率（%）（過去との比較）

【表5】は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容

や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、今年度は、過年度と比較して設問【4】文法・表現，【5】口語表現，【8】聞き取りの正答率が高いことが分かる。

設問別正答率（％）の推移（過去との比較）

〔表 5〕

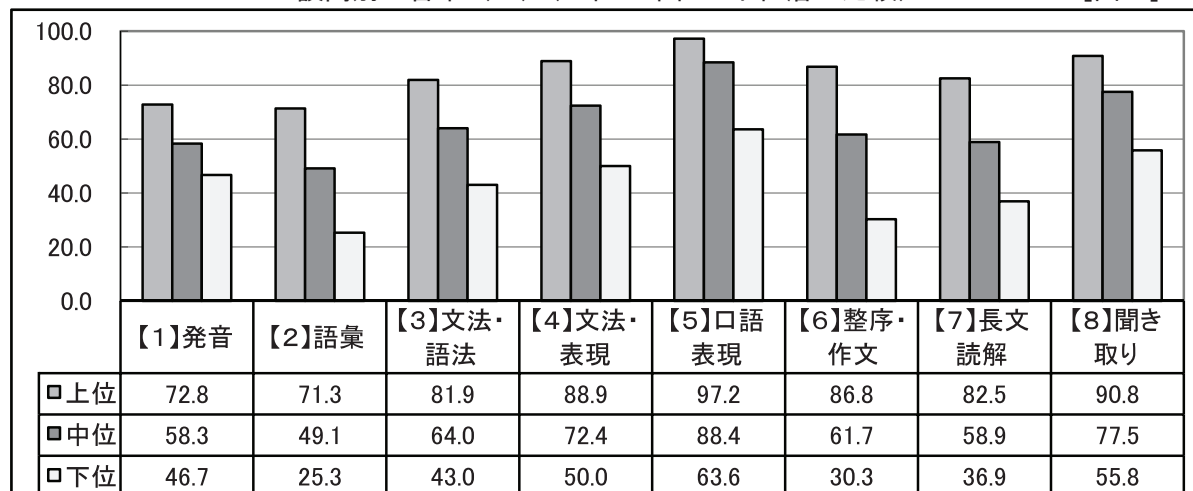
年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
抽出人数	3,108	3,102	3,252	3,158	3,284	3,227	3,204	3,265	3,252
全設問	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2	65.5
【1】発音	63.9	54.2	53.3	48.5	65.4	45.2	66.6	46.9	59.8
【2】語彙	59.6	44.5	53.0	54.0	46.4	50.6	41.2	47.9	49.6
【3】文法・語法	57.3	71.1	55.5	67.2	68.8	79.0	67.0	55.7	63.9
【4】文法・表現	54.4	49.4	42.6	66.8	47.9	53.3	40.3	42.9	71.4
【5】口語表現	62.4	67.6	86.4	76.7	70.7	74.4	73.5	45.8	83.9
【6】整序・作文	54.6	49.1	42.8	56.3	65.7	55.6	55.2	55.2	60.9
【7】長文読解	61.5	51.5	54.8	62.3	61.8	63.7	52.7	51.2	60.5
【8】聞き取り	65.7	52.7	72.1	50.6	60.0	70.7	75.1	59.1	75.5

(4) 平成 27 年度設問別正答率（上位・中位・下位層の比較）

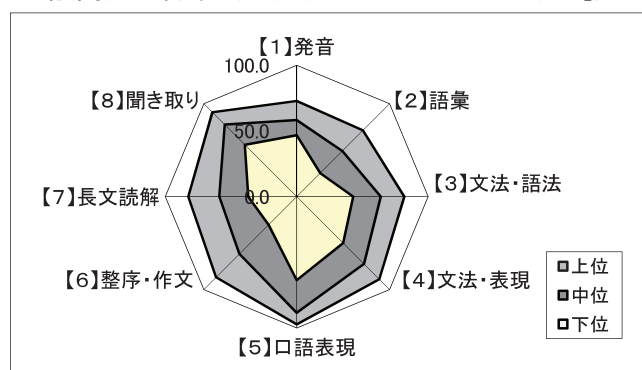
〔図 1〕は、調査校 146 校（学科・コース）から抽出した 3,252 名中の学校平均点上位 36 校（偏差値 55 以上）に所属する 1,147 名（上位層）、学校平均点中位 47 校（偏差値 45 以上 55 未満）に所属する 1,109 名（中位層）及び学校平均点下位 63 校（偏差値 45 未満）に所属する 996 名（下位層）の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率（％）（上位・中位・下位層の比較）

〔図 1〕



設問別正答率（％）（レーダーチャート）〔図 2〕



〔図 2〕は〔図 1〕をレーダーチャートにしたものである。各設問における各層の正答率を見ると、設問【2】語彙，【6】整序・作文，【7】長文読解で各層の差が大きく、特に下位層の正答率が低い。一方、設問【1】発音，【5】口語表現，【8】聞き取りでは、各層の差が小さくなっている。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別及び文における強勢の知識を測る。

【1】 次の(1)～(3)の下線部と発音が同じものを英文中の下線部ア～コから一つずつ選び、記号で答えなさい。また、(4)、(5)の会話において、下線部ア～エのうち最も強く読まれるものの一つずつを選び、記号で答えなさい。

- (1) book (2) cake (3) thank

When I went to the school, I saw a sick woman. I thought I should help her, but I didn't know what to do. Then an old man came to us. He said to me, "I'm her father. I'll take her to the hospital." Later I told my teacher about this.

- (4) A : When did you start playing soccer?
B : I started it when I was five years old.
(5) A : Is that girl with long hair Linda?
B : I don't think so because Linda has short hair.

配点 10点 (各2点)

正解 (1) イ (2) ク (3) ウ (4) ウ (5) エ

＜抽出答案における【1】小問別正答率(%)＞

学科・人数 小問	全 体 3,252	普 通 科 2,853	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 81
(1) <u>book</u>	59.8	37.9	39.2	29.1	33.8	16.7	28.4
(2) <u>cake</u>		76.6	78.1	66.9	56.3	65.3	67.9
(3) <u>thank</u>		54.5	55.6	47.3	42.5	44.4	44.4
(4) <u>five</u>		72.8	74.1	59.5	58.8	65.3	70.4
(5) <u>short</u>		57.4	59.4	39.2	45.0	36.1	49.4

本年度は、小問(1)、(2)、(3)を発音に関する問題、(4)、(5)を文における強勢に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、「調査校全体の正答率」という)は59.8%であった。

平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(以下、「分析答案」という)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

＜分析答案による誤答数＞

小問(発音)	誤答数	ア [u:]	イ [u]	ウ [θ]	エ [ð]	オ [æ]	カ [e]	キ [ð]	ク [ei]	ケ [a]	コ [i:]	無答
(1) <u>book</u> [u]	67	50	正答	5	0	0	6	0	0	6	0	0
(2) <u>cake</u> [ei]	24	0	0	0	4	4	14	1	正答	1	0	0
(3) <u>thank</u> [θ]	53	0	0	正答	18	4	3	18	5	0	5	0
小問(文における強勢)	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答						
(4) 疑問詞の内容	41	15	22	正答	4	0						
(5) 対比される情報	49	13	27	9	正答	0						

<考察>

小問(1)は、[u] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は37.9%と本問中最も低かった。誤答67例のうち50例が **ア school** であり、[u:] と [u] の発音は正確に区別されていないと考えられる。

小問(2)は、[ei] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は76.6%と本問中最も高かった。見出し語 **cake** と、**ク take** の下線部の発音 [ei] はよく理解されている。

小問(3)は、[θ] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は54.5%であった。誤答53例のうち、**エ Then** と **キ father** がそれぞれ18例あり、見出し語 **thank** の下線部の発音 [θ] は十分に理解されていないと思われる。また、他の誤答17例は全て母音に下線があり、見出し語 **thank** の **th-** に続く母音の影響を受けたようである。

小問(4)は、「いつサッカーを始めたか」という問いかけに対して、「5歳の時に始めた」と答える際に、どの語に強勢を置くかを問う問題である。調査校全体の正答率は72.8%とよくできていた。疑問詞 **when** に対応する **ウ five** に強勢を置くことは、判断しやすかったようである。

小問(5)は、「あの髪の長い女性はリンダか」という問いかけに対して、「リンダは髪が短いので、そうは思わない」と答える際に、どの語に強勢を置くかを問う問題である。調査校全体の正答率は57.4%であった。誤答49例のうち27例が **イ because** であり、long の対比である **エ short** という語に着目することができず、理由を表す接続詞 **because** に強勢を置くと誤って判断したと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

- ① 小問(1)、(3)に見られるように、[u:] と [u]、[θ] と [ð] などの紛らわしい発音の区別ができない。
- ② 小問(5)に見られるように、発話や応答において、強勢を置いて伝えるべき情報を意識できていない。

<具体的な指導例>

注意させたいつづりと音を含む次のような英文やスキットを示し、ペアやグループで音読や伝え合う活動を通して、発音に慣れさせる。その際に、正確な発音だけでなく、特にはっきりと伝えたい箇所を意識させる。幾つかのペアやグループに発表させ、発音や伝え方の留意点について全体にフィードバックをする。

- ① 発音の指導に用いる英文例：下線部は正確な発音を身に付けさせたい箇所

When Tom went home, he noticed that he left his math textbook in his classroom. Though he had to do math homework tonight, he didn't want to go to school. It takes him thirty minutes on foot. Then, he decided to ask his mother for help. His mother was cooking dinner in the kitchen.

- ② 強勢の指導に用いるスキット例：下線部は強勢を置くべき箇所、()内は強勢を置く理由

Mother : Do you have math exam tomorrow?

Tom : No, I don't. (疑問文への返答) But I have to do my homework. (対比される情報)

Mother : I see. After you finish your homework, please help me. (新たに提示される情報)

(2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)～(10)の文中の()内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) Kanazawa is (f) for its beautiful garden. Many people visit it.
- (2) I'll ask you four questions. If you find the answers, please (r) your hand.
- (3) Could you please give me something to (d)? I'm very thirsty.
- (4) I will go to the beach during the summer (v). I like swimming very much.
- (5) I want to use English in the (f). My dream is to be an English teacher or a tour guide.
- (6) A : How was your school trip to Okinawa?
B : It was a lot of fun. I'll never (f) it.
- (7) A : What do you do after school?
B : I play basketball. I'm a (m) of the basketball team.
- (8) A : How do you (s) your weekends?
B : I watch baseball on TV.
- (9) A : Have you ever been (a)?
B : Yes. I've ever been to Canada and Australia.
- (10) A : Why did you buy that umbrella?
B : Because the (p) was very low.

配点：10 点（各 1 点）

正解 (1) famous (2) raise (3) drink (4) vacation (5) future
(6) forget (7) member (8) spend (9) abroad (10) price

< 抽出答案における【2】小問別正答率（％） >

学科・人数 小問	全 体 3,252	普 通 科 2,853	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 81
(1) famous	55.7	57.6	38.5	47.5	31.9	88.9	42.0
(2) raise	11.3	12.1	2.0	12.5	2.8	27.8	4.9
(3) drink	71.2	73.7	48.0	58.8	54.2	94.4	48.1
(4) vacation	82.3	83.9	72.3	76.3	73.6	94.4	54.3
(5) future	57.0	59.6	35.1	46.3	31.9	94.4	33.3
(6) forget	50.4	53.0	26.4	36.3	34.7	72.2	24.7
(7) member	78.7	80.4	66.2	76.3	70.8	94.4	49.4
(8) spend	36.3	38.7	15.5	20.0	13.9	72.2	17.3
(9) abroad	32.1	34.6	8.1	20.0	6.9	61.1	18.5
(10) price	21.1	22.7	6.1	10.0	8.3	44.4	9.9

調査校全体の正答率は 49.6% であった。

< 過年度類題正答率（％） >

小問	27 年度正答率	過年度正答率 (出題年度)
(1) famous	55.7	55.9 (25 年度), 41.3 (20 年度)
(2) raise	11.3	29.5 (24 年度), 26.1 (22 年度)
(4) vacation	82.3	75.7 (24 年度)
(6) forget	50.4	53.8 (24 年度)
(9) abroad	32.1	25.5 (26 年度), 34.6 (23 年度)

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	つづりの誤り (数)	その他の誤り (数)	無答
(1) famous	39	7 : famouse (3), famos (1), famas (1), famus (1) 等	24 : flower (5), favorite (4), found (4) 等	8
(2) raise	94	19 : rase (9), rais (4), reis (2), reise (2) 等	68 : rise (27), right (13), reason (5), ride (4) 等	7
(3) drink	15	1 : dorink (1)	14 : do (12), driven (1) 等	0
(4) vacation	7	4 : vecation (1), vacacito (1) 等	2 : visite (1), visited (1)	1
(5) future	29	10 : fucher (2), futear (2), futur (2) 等	15 : foreign (7), fast (2) 等	4
(6) forget	35	5 : fourget (2), froget (1), foget (1), foreget (1)	25 : find (8), found (7), for (3) 等	5
(7) member	7	2 : menber (1), memmber (1)	4 : most (3), mayor (1)	1
(8) spend	65	0	58 : see (16), stay (9), something (6) 等	7
(9) abroad	70	11 : abroud (5), abrod (2) 等	44 : australia (10), around (6) 等	15
(10) price	80	19 : plice (6), prise (3) 等	44 : pay (8), place (6), put (5), present (3) 等	17

<考察>

小問(1)から(5)は文中の適語補充問題, (6)から(10)は対話文中の適語補充問題となっている。

小問(1) famous の調査校全体の正答率は55.7%であった。誤答39例のうち「その他の誤り」が24例, 無答が8例であった。文脈から famous という語を思い出すことができなかったようである。

小問(2) raise の調査校全体の正答率は11.3%で本問中最も低かった。NEW HORIZON 1 Warm-up に「教室で使う英語」として紹介されているものの, 定着していないようである。

小問(3) drink の調査校全体の正答率は71.2%で高かった。誤答15例のうち「その他の誤り」が14例で, thirsty という語が理解できなかったためと考えられる。

小問(4) vacation の調査校全体の正答率は82.3%で, 本問中最も高かった。during the summer vacation という表現にはなじみがあるようである。

小問(5) future の調査校全体の正答率は57.0%であった。誤答29例のうち「つづりの誤り」が10例あり, future という語を思いついたが, 正しくつづることができなかった。

小問(6) forget の調査校全体の正答率は50.4%であった。誤答35例のうち「その他の誤り」が25例, 無答が5例あり, 文脈から forget という語を思い出すことができなかったようである。

小問(7) member の調査校全体の正答率は78.7%で高かった。自己紹介の表現として I'm a member of は定着しているようである。

小問(8) spend の調査校全体の正答率は36.3%であった。誤答65例のうち「その他の誤り」が58例, 無答が7例あり, つづりの誤りはなかった。余暇の過ごし方を尋ねる How do you spend...? という表現にはなじみがないようである。

小問(9) abroad の調査校全体の正答率は32.1%であった。誤答70例のうち「その他の誤り」が44例, 無答が15例であった。場所を表す語を答えようとしたものの, abroad という語が定着していないため正解に至らなかったと考えられる。

小問(10) price の調査校全体の正答率は21.1%と低かった。誤答80例のうち「つづりの誤り」が

19 例あり、r と l、c と s の混同が見られた。また、「その他の誤り」と無答も多く、low という語から price という語を思いつくことができなかったようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(2)、(8)、(9)に見られるように、指示や質問の際によく使われる語であっても、それらの語を用いて適切に表現することができない。

<具体的な指導例>

該当の語を含む指示や質問を聞いて、応答する。応答した生徒は、列やグループ内で同様の指示や質問を別の相手に対して行う。

【指示の例】

Teacher: (Raise _____. と板書し) Raise your right hand.

Student A: (右手を上げる)

↓

Student A: Raise your textbook.

Student B: (教科書を上げる)

↓

Student B: Raise your left hand.

Student C: (左手を上げる)

【質問の例】

Teacher: (How do you spend ____? と板書し) How do you spend your weekends?

Student A: I watch baseball on TV.

↓

Student A: How do you spend your summer vacation?

Student B: I go to Canada to study English.

↓

Student B: How do you spend Christmas?

Student C: I have a party with my friends.

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)~(5)がそれぞれ正しい文になるように、最も適当な語(句)をア~エから選び、記号で答えなさい。

(1) She () the book three days ago.

ア has read イ is reading ウ read エ reads

(2) Becky is a student () comes from Canada.

ア which イ which she ウ who エ who she

(3) I am sleepy now () I went to bed early last night.

ア because イ before ウ so エ though

(4) Osaka-jo () by Toyotomi Hideyoshi.

ア builds イ built ウ was building エ was built

(5) I saw Kevin and Nancy yesterday and talked with () a lot.

ア their イ them ウ themselves エ they

配点：10 点（各 2 点）

正解 (1) ウ (2) ウ (3) エ (4) エ (5) イ

<抽出答案における【3】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 3,252		普 通 科 2,853	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 81
(1) read	63.9	60.1	63.6	33.8	38.8	29.2	77.8	29.6
(2) who		79.2	80.8	70.3	72.5	61.1	88.9	59.3
(3) though		23.3	24.6	12.8	11.3	9.7	50.0	16.0
(4) was built		80.0	82.0	66.9	73.8	59.7	100.0	54.3
(5) them		76.9	78.7	62.8	70.0	61.1	94.4	54.3

調査校全体の正答率は 63.9%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	27 年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(2) 関係代名詞 who の用法	79.2	83.4（10 年度）
(3) 接続詞 though の用法	23.3	23.9（26 年度）
(4) 受動態の用法	80.0	72.6（17 年度）

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) read	41	30	3	正答	7	1
(2) who	30	4	3	正答	23	0
(3) though	82	58	3	21	正答	0
(4) was built	15	1	6	8	正答	0
(5) them	34	22	正答	3	9	0

<考察>

小問(1)は、動詞 read を時制に合わせて適切に活用できるかを問う問題である。調査校全体の正答率は 60.1%であった。誤答 41 例のうち 30 例は ア has read であった。過去を表す表現 three days ago とともに、現在完了は使えないということを理解していないようである。

小問(2)は、関係代名詞 who を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 79.2%とよくできていた。関係代名詞 who の用法についてはおおむね理解されている。

小問(3)は、文脈に合う適切な接続詞 though を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 23.3%と本問中最も低かった。誤答 82 例のうち 58 例が ア because であった。接続詞 though, because の意味・用法の理解や、文の前後関係を論理的に読み取る力が不十分であると考えられる。

小問(4)は、受動態の用法を正しく理解しているかを問う問題である。調査校全体の正答率は 80.0%と本問中最も高かった。受動態の用法についてはよく理解されている。

小問(5)は、代名詞 them を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 76.9%と高かった。誤答 34 例中 22 例が ア their であった。代名詞 them の用法については理解されているものの、目的格 them と所有格 their を混同している生徒もいると考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問 (3) に見られるように、文の前後関係に応じて接続詞を適切に用いることができない。

<具体的な指導例>

- (1) 英文を読ませ、文の前後関係から適切な接続詞を考えさせる。
- (2) その後、接続詞に続く英文を創作させる。

(3) 完成した英文をペアやグループなどで発表した後で回収し、添削をして返却する。

【(1)の例】

Tom's brother went to a hospital yesterday () he was hurt in a car accident last night. His sister was with him then. She also went to the hospital () she didn't get injured at all.

【(2)の例】

Tom's brother went to a hospital yesterday because _____.
His sister was with him then. She also went to the hospital though _____.

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)の二人の会話が成立するように、最も適当な語(句)をア～エから選び、記号で答えなさい。

(1) A : We should not use plastic shopping bags. What do you think?

B : I am () your idea. I always bring my own bag.

ア against イ for ウ on エ with

(2) A : Jack, did you help your mother last night?

B : No. I () do my homework yesterday.

ア had to イ must ウ should エ would

(3) A : Do you know this song?

B : Yes. It always () me happy.

ア becomes イ feels ウ gives エ makes

(4) A : () bag is this?

B : I don't know. Someone left it here.

ア How イ Where ウ Who エ Whose

(5) A : How was the football game? Did you win?

B : No. We lost completely. They were () our team.

ア as strong as イ as weak as ウ stronger than エ weaker than

配点：10点（各2点）

正解 (1) イ (2) ア (3) エ (4) エ (5) ウ

＜抽出答案における【4】小問別正答率（％）＞

学科・人数 小問	全 体 3,252	普 通 科 2,853	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 81
(1) for	50.8	53.5	38.5	26.3	16.7	66.7	27.2
(2) had to	64.2	66.1	54.1	50.0	47.2	88.9	42.0
(3) makes	85.9	87.0	83.1	77.5	73.6	100.0	65.4
(4) Whose	80.0	81.8	70.3	71.3	63.9	94.4	54.3
(5) stronger than	76.0	78.4	52.7	65.0	62.5	100.0	50.6

調査校全体の正答率は71.4%であった。

＜過年度類題正答率（％）＞

過年度類題については、該当なし。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) for	62	37	正答	4	21	0
(2) had to	40	正答	29	8	3	0
(3) makes	7	1	2	4	正答	0
(4) Whose	14	2	8	4	正答	0
(5) stronger than	27	9	9	正答	9	0

<考察>

小問(1)は、支持・賛成を表す前置詞 for を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 50.8%と本問中最も低かった。誤答 62 例のうち 37 例が **ア** against であった。これは、B の応答の I always bring my own bag. を反対意見を述べていると誤って理解したためと考えられる。

小問(2)は、助動詞 had to を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 64.2%であった。誤答 40 例のうち 29 例が **イ** must であった。これは、文意を理解したが、過去時制の文では must を使えないことを理解していないためと考えられる。

小問(3)は、make + O + C の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 85.9%と本問中最も高かった。... make me happy という表現はよく定着している。

小問(4)は、疑問詞 Whose を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 80.0%と高かった。Whose ... is this? という表現は、New Horizon 1 Unit 8 等に出てくる英文であり、よく理解されている。

小問(5)は、比較表現に関する問題である。調査校全体の正答率は 76.0%であった。文意を理解した上で、比較級+than を適切に用いることができた。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(1)に見られるように、対話の内容に応じて適切に表現することの苦手な生徒が見られる。

<具体的な指導例>

具体的な場面や状況を設定して生徒に提示し、言語活動を通してその定着を図る。

【for や against を用いて自分の意見を述べる場面の例】

A, B それぞれの()に for, against のどちらが当てはまるかを答えさせて、用法を確認する。次にペアやグループで口頭で意見交換した後、自分の意見を書かせる。

Students should not bring cell phones to school. What do you think?

A: I am () this idea. I think we should concentrate on studying.

B: I am () this idea. Cell phones are very useful when I want to contact my mother.

(5) 口語表現問題

出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は電話での会話です。(1)～(5)に入る最も適当な表現をア～コから選び、記号で答えなさい。ただし、各表現は一度しか使えません。

Becky's mother: Hello?

Tom: Hello. This is Tom. (1)

Becky's mother: Sorry. She is not here right now. She went to the bookstore.
I think she'll come back soon.

Tom: OK. (2)

Becky's mother: Oh! Just a minute. I think she has just come home. Becky,
Tom is calling you!

Becky: Hi, Tom. (3)

Tom: Hi, Becky. I got four movie tickets from my father.
I'm going to see a movie with Miki and John on Friday night. (4)

Becky: I'd love to, but I must take my little sister to the dentist near my
house at 3:00. I don't think I can meet you before 4:00. Is it OK?

Tom: No problem. You can join us. The movie starts at 6:00.

Becky: (5)

Tom: How about meeting in front of the station at 5:30?

Becky: Sounds good. Thank you, Tom. Bye.

Tom: Bye.

ア What's up?	イ I'm sorry I can't.
ウ Are you free tonight?	エ Would you like to join us?
オ That's too bad.	カ I'll call back later.
キ May I speak to Becky?	ク May I have your name, please?
ケ When and where shall we meet?	コ You have the wrong number.

配点：10 点（各 2 点）

正解 (1) キ (2) カ (3) ア (4) エ (5) ケ

<抽出答案における【5】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 3, 252		普 通 科 2, 853	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 81
(1) May I speak to Becky?	83. 9	93. 4	94. 1	87. 8	95. 0	86. 1	100. 0	80. 2
(2) I'll call back later.		85. 3	86. 6	75. 0	78. 8	72. 2	100. 0	70. 4
(3) What's up?		87. 1	88. 4	75. 0	86. 3	80. 6	100. 0	66. 7
(4) Would you like to join us?		75. 2	77. 7	60. 8	57. 5	55. 6	88. 9	46. 9
(5) When and where shall we meet?		78. 6	80. 5	68. 9	65. 0	56. 9	100. 0	56. 8

調査校全体の正答率は 83.9%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) May I speak to Becky?	2	2	0	0	0	0	0	正答	0	0	0	0
(2) I'll call back later.	7	0	0	0	0	5	正答	0	1	0	1	0
(3) What's up?	6	正答	1	0	1	3	0	0	0	0	1	0
(4) Would you like to join us?	16	1	1	11	正答	1	0	0	0	1	1	0
(5) When and where shall we meet?	12	0	5	0	1	3	0	0	1	正答	2	0

<考察>

小問(1)は、Becky に電話した Tom が彼女の母親に Becky がいるかどうかを尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 93.4%と本問中最も高かった。May I speak to ...? という表現は定着している。

小問(2)は、Becky の不在を告げられた Tom が「後で電話をかけ直します」と答える場面である。調査校全体の正答率は 85.3%と高かった。I'll call back later. という表現は定着している。

小問(3)は、電話に出た Becky が Tom に挨拶をする場面である。調査校全体の正答率は 87.1%と本問中二番目に高かった。What's up? という表現は、定着している。

小問(4)は、Tom が Becky に「映画のチケットが手に入ったので一緒に行かないか」と誘う場面である。調査校全体の正答率は 75.2%と本問中最も低かった。誤答は ウ Are you free tonight? に集中しており、次の Becky の返答 I'd love to, but.... から推測して正しい問いかけ文を選択することができなかったようである。

小問(5)は、Becky が待ち合わせ場所と時間を尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 78.6%であった。誤答 12 例のうち イ I'm sorry I can't. を選択したものが 5 例あり、Becky が Tom の誘いを断ったと誤って判断したものと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

基本的な会話表現はよく定着しているが、小問(4)、(5)に見られるように、誘いを受けたり断ったりする場面において、適切な表現で応じられないことがある。

<具体的な指導例>

誘う、承諾する、断る表現を練習した後で、ペアを作り、人を誘う計画を 2 つ考える。別のペアに対して自分たちの計画に参加しないかと問いかけ、承諾または断る表現で応じる。次に、誘う側と誘われる側を交代し、同様に行う。誘いの内容に応じて、1～2 文を付け加えて応答し、会話を続けるよう促す。

【誘う表現】

How about -ing? / Let's ~. / Would you like to ~? / Why don't you ~? など

【承諾する表現】

Sure. / No, problem. / OK. / Of course. / Why not? など

【断る表現】

Sorry, I can't. / No, thank you. / I wish I could. など

【活動の例】 ペア A: 誘う側 / ペア B: 誘われる側

A1: We are going to see a musical this weekend.

A2: The musical is performed in sign languages. Would you like to come with us?

B1: That sounds nice! I'd like to join you.

B2: I'm sorry, but I can't. I have to see the dentist.

次に、ペア B: 誘う側 / ペア A: 誘われる側で活動する。

その後で、それぞれ別のペアと対話の練習を行う。

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力、基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の(1)～(4)の [] 内の語を意味が通るように正しく並べかえて、英文を完成させなさい。

また、(5)は二人の会話が成立するように、() 内に 3 語以上の英語を入れて英文を完成させなさい。ただし、【 】内の語をこの順序で使いなさい。

- (1) It is [for / have / important / to / you] breakfast every day.
 (2) Do you [is / know / my / notebook / where]?
 (3) A : Is the student by the tree Miki?
 B : No. She is Sakura. The girl [is / over / playing / tennis / there] Miki.
 (4) A : Excuse me, but can you [get / how / me / tell / to] to City Hospital?
 B : OK. I'll take you there.
 (5) A : Where do you live in Japan?
 B : I live in Sendai. Do you know the Tanabata Festival there?
 A : Yes, of course. () there? [long, lived]
 B : For five years.

配点 : 15点 (各 3 点 部分点なし)

- 正答 (1) important for you to have
 (2) know where my notebook is
 (3) playing tennis over there is
 (4) tell me how to get
 (5) How long have you lived

<抽出答案における【6】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,252		普 通 科 2,853	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 81
(1)	60.9	71.8	74.5	52.7	60.0	45.8	94.4	40.7
(2)		37.5	40.5	16.9	15.0	8.3	77.8	9.9
(3)		60.1	62.5	43.2	51.3	43.1	83.3	27.2
(4)		80.7	82.3	69.6	71.3	68.1	100.0	60.5
(5)		54.6	57.6	31.8	43.8	23.6	88.9	23.5

小問(1)、(2)は、文を完成させる整序問題、小問(3)、(4)は、会話を完成させる整序問題、小問(5)は、会話が成立するように指定された語を用いて表現させる形式とした。なお、いずれの小問にも日本文は示さないこととした。調査校全体の正答率は60.9%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	27年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) 形式主語構文 It is ~ for 人 to 不定詞	71.8	65.7 (22年度) It was easy for me to answer the question. 76.3 (19年度) It is easy for me to learn English. 66.1 (15年度) It is important for you to learn history.
(2) 間接疑問	37.5	64.5 (25年度) I don't know why he said so. 53.0 (23年度) Do you know where she will go tomorrow? 69.2 (22年度) I don't know who he is. 59.8 (20年度) Do you know who he is?
(3) 現在分詞	60.1	53.9 (25年度) The man standing over there is our teacher. 55.1 (18年度) Who is that boy riding a bike? 71.2 (17年度) The man wearing glasses is my father.
(4) 疑問詞+to 不定詞	80.7	60.5 (23年度) I don't know how to play the piano. 74.8 (17年度) Could you tell me how to get to the station?
(5) 現在完了(継続)	54.6	26.6 (26年度) I have never been there. (経験) 35.2 (25年度) I have been to seven countries. (経験) 35.4 (24年度) Have you ever read them? (経験) 72.8 (22年度) Have you ever been to Okinawa? (経験)

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数
(1)	29
(2)	77
(3)	47
(4)	21
(5)	59

<考察>

小問(1)は、It is ～ for 人 to 不定詞の構文を用いた表現ができることを確かめる問題である。調査校全体の正答率は71.8%と高かった。この用法は、ある程度定着しているようである。

誤答例 It is important for you have to breakfast every day.	7 例
--	-----

誤答 29 例のうち 7 例が、不定詞の形 to have breakfast を正しく書けなかった。

小問(2)は、間接疑問を用いた表現ができることを確かめる問題である。調査校全体の正答率は37.5%と低かった。

誤答例 ① Do you know where is my notebook?	66 例
② Do you know my notebook where is?	9 例

誤答 77 例のうち 66 例が、間接疑問の語順が平叙文と同様であることが理解されていない。また、過年度の正答率との比較から、疑問文とともに用いた時に、語順の誤りが起きやすいと考えられる。

小問(3)は、現在分詞の後置修飾を用いた表現ができることを確かめる問題である。調査校全体の正答率は60.1%であった。

誤答例 ① The girl is playing tennis over there Miki.	41 例
② The girl over there is playing tennis Miki.	3 例

誤答 47 例のうち 44 例が、現在分詞 playing を正しい位置で用いることができなかった。

小問(4)は、疑問詞+to 不定詞を用いた表現ができることを確かめる問題である。調査校全体の正答率は80.7%と本問中最も高かった。how to という表現は、定着しているようである。

小問(5)は、現在完了を用いて期間を尋ねる表現ができることを確かめる問題である。調査校全体の正答率は54.6%であった。

誤答例 ① How long lived there?	23 例
② How long have you lived in/for there?	10 例

誤答 59 例のうち 23 例が、期間を尋ねる How long ...? という表現はできているが、現在完了の疑問形 have you lived の形ができていなかった。また、10 例が、副詞 there を正しく使うことができなかった。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(2)のように、間接疑問を用いた表現が定着していない。

<具体的な指導例>

- ① 生徒全員にクラスメートの出身地、誕生日、好きな科目・食べ物・スポーツ等を記入できるカードを配付する。ペアワークで互いに質問をさせて、聞き取った相手の情報をカードに書かせる。質問や返答は、必ずフルセンテンスで言うように指示する。

【例】

A: Where were you born? / Where are you from? B: I was born in Nagoya. / I'm from Tokyo.

C: What is your favorite sport? / When is your birthday? D: I like skiing. / It is May 5th.

- ② ①のペアを含めた4～6人のグループを作り、ペアワークで聞き取った情報について、間接疑問を用いて尋ねる会話を板書等で示し、グループワークで行うことを全体で確認する。質問や返答は、必ずフルセンテンスで言うように指示する。

【例】

A: Do you know where D is from? C: Yes, I do. He is from Nagoya.

C: Do you know what subject D likes? B: No, I don't. I don't know what subject she likes.

C: I know what subject D likes. She likes music. B: Oh, I see. Thank you.

B: Excuse me, I'd like to know how you come to school.

D: I come to school by bus. How does B come to school?

A: I know how B comes to school. He walks to school.

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。

- 【7】 次の Mary が書いた日記を読んで、以下の問いに答えなさい。

A funny thing happened to me today. I went shopping in London. I wanted to get some Christmas presents and some books for my college classes.

I got on an early train to London and finished buying (1)everything that I wanted by early afternoon. I took a taxi to the station to get on the 3:30 train, but I missed it. It was too late. So (2)I decided to wait for the next one for an hour. I bought an evening newspaper and went to the station cafeteria. I bought a cup of coffee and some cookies. I sat down near the window, opened the newspaper, and began to do the crossword. I always enjoy doing crossword puzzles.

After a few minutes a man sat down in front of me. He was very tall. He was wearing a nice suit. I didn't say anything and I continued my crossword. Suddenly he put out his hand across the table, took one of my cookies, and ate it. (3)I couldn't believe my eyes! I was very shocked and I couldn't say anything. Anyway, I didn't want any trouble, so I decided to say nothing. I always stay away from trouble if I can. I took a cookie myself and went back to my crossword.

When the man took a second cookie, (4)I didn't look up and I didn't make a sound. I kept doing the puzzle. After a few minutes, I put out my hand, took the last cookie, and looked at the man. He was looking at me. He looked very angry, but I put the cookie in my mouth. Then, suddenly the man stood up and hurried out of the cafeteria. I didn't know why (5)he did this.

I finished my coffee, folded my newspaper, and stood up. And then, I found (6) under the newspaper. I felt sorry for the man.

(注) **crossword (puzzle)** 「クロスワード(パズル)」 **put out** 「(手を)伸ばした」

- 問1 下線部(1)に含まれるものとして最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア presents and books
 - イ a train ticket and a nice suit
 - ウ an evening newspaper and a crossword
 - エ coffee and cookies
- 問2 下線部(2)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア Because the train was late.
 - イ Because Mary couldn't get on the train.
 - ウ Because Mary needed to go back to London.
 - エ Because Mary couldn't buy a cup of coffee.
- 問3 下線部(3)において **Mary** はどのように思ったのか。最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア May I have your cookies?
 - イ Shall I help you with the crossword?
 - ウ Why do you want my coffee?
 - エ Why did you eat my cookie?
- 問4 下線部(4)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア Because Mary wanted to read the newspaper.
 - イ Because Mary wanted to make friends with the man.
 - ウ Because Mary wanted to stay away from trouble.
 - エ Because Mary wanted to finish the crossword soon.
- 問5 下線部(5)の具体的な内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア He sat down in front of Mary.
 - イ He put on a nice suit.
 - ウ He went out of the cafeteria quickly.
 - エ He gave Mary the last cookie.
- 問6 空所(6)に入る語句として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア my cookies
 - イ the man's cookies
 - ウ my crossword
 - エ the man's crossword
- 問7 次の質問に対する答えとして最も適当なものをア～エから選び、記号で答えなさい。
- How many cookies did the man eat?
- ア One. イ Two. ウ Three. エ No cookies.
- 問8 本文の内容に合うように次の英文を起こった順に並べかえた時、最も適当なものをア～エから選び、記号で答えなさい。
- 1 A man sat down at Mary's table.
 - 2 The man stood up and left the cafeteria.
 - 3 Mary started doing a crossword puzzle.
 - 4 Mary did not talk to the man but she ate some cookies.
- ア 1 → 3 → 2 → 4
 - イ 1 → 3 → 4 → 2
 - ウ 3 → 1 → 2 → 4
 - エ 3 → 1 → 4 → 2

問9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア Mary bought a crossword puzzle as a Christmas present.
 イ Mary decided to take a taxi to London because she couldn't get on the 3:30 train.
 ウ Mary bought an evening newspaper at the station cafeteria.
 エ A funny thing happened between two persons at the station cafeteria.
 オ Mary stopped reading the newspaper because the man sat down in front of her.
 カ Mary and the man didn't say a word.
 キ Mary always stays away from trouble by saying, "I am sorry."

配点：20 点（各 2 点， 問 9 は各 2 点）

正解 問 1 ア 問 2 イ 問 3 エ 問 4 ウ 問 5 ウ
 問 6 ア 問 7 イ 問 8 エ 問 9 エ, カ

<抽出答案における【7】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問		全 体 3,252	普 通 科 2,853	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 81	
問 1		60.5	78.6	80.9	60.1	66.3	58.3	94.4	59.3
問 2			56.7	58.4	39.2	43.8	40.3	77.8	50.6
問 3			79.6	81.5	65.5	72.5	59.7	100.0	60.5
問 4			56.2	58.7	31.8	47.5	36.1	77.8	35.8
問 5			64.7	67.2	43.2	51.3	43.1	77.8	45.7
問 6			45.9	48.1	24.3	35.0	33.3	61.1	27.2
問 7			66.2	68.6	45.9	50.0	45.8	88.9	46.9
問 8			60.7	63.4	40.5	41.3	44.4	83.3	30.9
問 9	工	60.5	35.5	37.5	16.9	25.0	12.5	66.7	23.5
	力		60.6	63.9	33.1	43.8	31.9	77.8	34.6

調査校全体の正答率は 60.5%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問 1	19	正答	11	4	4				0
問 2	47	35	正答	5	5				2
問 3	17	3	9	5	正答				0
問 4	51	11	11	正答	26				3
問 5	42	13	3	正答	24				2
問 6	57	正答	30	14	12				1
問 7	38	20	正答	8	7				3
問 8	50	10	20	16	正答				4
問 9	135	4	46	37	正答	19	正答	9	20

<考察>

問 1 は，everything の内容を問う問題である。調査校全体の正答率は 78.6%と高かった。ロンドン

における Mary の買い物の内容は、理解できているようである。

問 2 は、Mary が次の列車まで一時間待つことになった理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 56.7% であった。誤答 47 例のうち、**A** Because the train was late. を選んだ誤答が 35 例と非常に多かった。これは、直前の It was too late. を「列車が遅れた」と誤って解釈したと考えられる。

問 3 は、男性が 1 枚目のクッキーを食べた時の、Mary の気持ちを推測する問題である。調査校全体の正答率は 79.6% と本問中最も高かった。文脈から下線部の文意をよく理解できていた。

問 4 は、男性が 2 枚目のクッキーを食べた時に、Mary が男性を見上げることも、物音を立てることもしなかった理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 56.2% であった。誤答 51 例のうち、**E** Because Mary wanted to finish the crossword soon. が 26 例と半数を占めていた。これは、I always stay away from trouble if I can. という文に着目せず、直後の I kept doing the puzzle. から誤って判断したと考えられる。

問 5 は、he did this の内容を問う問題である。調査校全体の正答率は 64.7% であった。誤答 42 例のうち、**F** He gave Mary the last cookie. が 24 例あり、約半数を占めていた。これは、直前の Then, suddenly the man stood up and hurried out of the cafeteria. を正しく読み取ることができず、さらに He looked very angry, but I put the cookie in my mouth. から「男性は怒っているように見えたが、私にクッキーをくれた」と誤って解釈したのであろう。

問 6 は、新聞の下に置かれていて見えなかったものは何かを問う問題である。調査校全体の正答率は 45.9% と低かった。誤答 57 例のうち、**I** the man's cookies が 30 例あり、半数以上を占めていた。Mary が食べていたクッキーが、実は男性のものであったと分かるという結末のおもしろさを、直後の I felt sorry for the man. を手がかりにして読み取ることができなかったようである。

問 7 は、男性が食べたクッキーの枚数を問う問題である。調査校全体の正答率は 66.2% であった。誤答 38 例のうち、**A** one を選んだ誤答が 20 例と約半数を占めていた。When the man took a second cookie, という一文を正しく読み取ることができなかったためと考えられる。

問 8 は、日記に書かれている出来事の起こった順序を問う問題である。調査校全体の正答率は 60.7% であった。誤答は分散しており、二人の行動を整理しながら話の展開を正しく読み取れなかったようである。

問 9 は、本文の内容に一致するものを選択する問題である。調査校全体の正答率は、**F** が 35.5% と本問中最も低く、**A** が 60.6% であった。誤答 135 例のうち 46 例が、**I** Mary decided to take a taxi to London because she couldn't get on the 3:30 train. 37 例が、**H** Mary bought an evening news paper at the station cafeteria. であった。「タクシーに乗ったが列車に間に合わなかった」「夕刊を買って駅のカフェテリアに行った」という日記の内容を、正しく読み取ることができなかったと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

問 6、9 に見られるように、情報を断片的に捉えてしまい、場面の状況や登場人物の行動などを整理しながら、全体の話の展開を正確に捉えられない。

<具体的な指導例>

英文を読ませた後で、①文中に書かれている情報を確認する Q&A と、②文中に書かれていない情報等について推測や想像をさせる Q&A をペアワークで行わせる。書かれていない情報についても推測や想像をさせる活動を通して、場面の状況や登場人物の心情をより鮮明に思い描かせ、与えられた英文の理解を一層深めさせる。

【①文中に書かれている情報を確認する Q&A の例】

Q: How did Mary go to the station? A: She went there by taxi.

Q: Did she catch the train? A: No. She missed it.

Q: How long did she have to wait for the next train? A: She had to wait for an hour.

Q: When did she buy an evening newspaper? A: She bought it before she went to the station cafeteria.

Q: What did she buy at the cafeteria? A: She bought a cup of coffee and some cookies.

【②文中に書かれていない情報等について推測や想像をさせる Q&A の例】

Q: What do you think the man is like? A: I think he is a rich business man.

Q: Why do you think the man said nothing to Mary when she ate his cookies?

A: I think it's because he also wanted to stay away from trouble.

Q: If you were in the man's shoes, would you say something to Mary?

A: Yes. I can't bear her to eat my cookies. I will say, "Don't eat my cookie!"

Q: What do you think the man means by standing up suddenly and hurried out of the cafeteria?

A: I think he made a silent protest against Mary's unbelievable behavior.

Q: What do you think is important to avoid making such a mistake as Mary did?

A: That kind of mistake will happen, but I think it important to try to keep such a mistake in mind.

(8) 聞き取り問題

出題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

【8】 この問題は、先生または放送の指示に従い、正しいものには○、そうでないものには×をつけなさい。正しい答えはそれぞれ一つしかありません。

これから問題8「聞き取り」問題を始めます。必要があればメモをとってもかまいません。最初に Ken と Emi との会話文が読まれます。続いて、それについての問いが5問読まれます。次に会話文がもう一度読まれ、問いとそれに対する四つの答え、(a)、(b)、(c)、(d)が読まれます。正しいものには○、そうでないものには×をつけなさい。正しい答えは、それぞれ一つしかありません。答えは一度しか読まれません。それでは、始めます。

Ken: Good morning, Emi.

Emi: Good morning, Ken. Hey, you look sick. Are you all right?

Ken: I'm just hungry. I didn't have breakfast this morning.

Emi: You should eat breakfast. It is the most important meal of the day.

Ken: Yes, I know. But I woke up late and didn't have enough time to eat breakfast.

Emi: Do you want to eat this sandwich?

Ken: Can I? Thank you, Emi.

Emi: Here you are. So, what time do you usually get up?

Ken: I usually get up at 7:00, but this morning I got up at 7:50 and left home at 8:00.

Emi: Do you usually eat breakfast?

Ken: Of course, I do.

Emi: Did you go to bed late last night?

Ken: Yes, I did. Last night, I studied very hard for today's math test. I went to bed at 1 a.m.

Emi: I see... wait, did you say today's math test? It's on Friday, not today. We have an English test today.

Ken: Really? I didn't study for the English test!

Emi: Poor Ken.

Ken: (Sigh) Can I have another sandwich?

Emi: I'm sorry, but that was the last one.

Question 1 Did Ken have breakfast this morning?

- (a) Yes, he did. (b) No, he didn't. (c) Yes, they did. (d) No, they didn't.

Question 2 What time does Ken usually get up?

- (a) At 6:30. (b) At 7:00. (c) At 7:50. (d) At 8:00.

Question 3 When will Ken and Emi have the math test?

- (a) Today. (b) Tomorrow. (c) On Friday. (d) Yesterday.

Question 4 Why did Ken go to bed late last night?

- (a) Because he felt sick. (b) Because he made sandwiches.
(c) Because he was studying English. (d) Because he was studying math.

Question 5 How many sandwiches did Ken eat?

- (a) One. (b) Two. (c) Three. (d) Four.

配点 15点 (各3点)

正答 Question 1 a (×) b (○) c (×) d (×) Question 2 a (×) b (○) c (×) d (×)
Question 3 a (×) b (×) c (○) d (×) Question 4 a (×) b (×) c (×) d (○)
Question 5 a (○) b (×) c (×) d (×)

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確かめる問題である。問題を、「会話文→質問→会話文→質問→解答選択肢」の順で提示した。

本年度の内容は、Ken が試験日程を誤解していたことについての会話である。問題文の語数は176語であり、昨年度の158語よりやや長くなっている。質問は、Yes または No で答える疑問文を1問 (Question 1) と疑問詞を使った疑問文を4問 (Questions 2, 3, 4, 5) とした。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○または×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は75.5%と例年よりも高かった。

<抽出答案における【8】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,252	普 通 科 2,853	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 81
Question 1	72.8	74.9	54.7	65.0	58.3	77.8	50.6
Question 2	83.8	85.3	75.0	85.0	69.4	94.4	56.8
Question 3	76.0	77.2	63.5	78.8	69.4	94.4	54.3
Question 4	72.1	74.2	54.7	55.0	63.9	100.0	49.4
Question 5	72.9	74.8	57.4	63.8	56.9	83.3	56.8

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)	無答
Question 1	24	21	正答	1	2	0
Question 2	10	0	正答	9	1	0
Question 3	12	4	5	正答	3	0
Question 4	13	0	0	13	正答	0
Question 5	14	正答	13	0	1	0

<考察>

Question 1 は、「Ken が今朝、朝食を食べたかどうか」を問うものである。調査校全体の正答率は72.8%であった。誤答24例のうち21例が、(a) Yes, he did.であった。Ken の I'm just hungry. I didn't have breakfast this morning. という発言を正しく聞き取れなかったと考えられる。

Question 2 は、「Ken はいつも何時に起きるのか」を問うものである。調査校全体の正答率は83.8%と本問中最も高かった。Emi の So, what time do you usually get up? という質問に対する Ken の I usually get up at 7:00, という応答から容易に正答を判断できたようである。

Question 3 は、「Ken と Emi は数学のテストをいつ受けるのか」を問うものである。調査校全体の正答率は76.0%と高かった。Emi の It's on Friday, not today. という発言と場面の状況を理解できているようである。

Question 4 は、「昨夜、Ken が寝るのが遅くなったのはなぜか」を問うものである。調査校全体の正答率は72.1%であった。誤答13例全てが、(c) Because he was studying English. であった。これは Ken の Last night, I studied very hard for today's math test. や I didn't study for the English test! という発言を聞き取れず、場面の状況を誤って判断したためと考えられる。

Question 5 は、「Ken がサンドイッチをいくつ食べたか」を問うものである。調査校全体の正答率は72.9%であった。誤答14例のうち13例が、(b) Two. であった。Emi の I'm sorry, but that was the last one. という発言を誤解して、サンドイッチを二つもらったと判断したと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

Questions 1, 4, 5 のように、聞き取った内容から必要な情報を整理して正確に理解することができない。

<具体的な指導例>

ある理解させたい言葉についての情報をカードにして生徒に与え、ペアやグループで与えられた情報を伝え合ったり質問したりしながら情報についてまとめさせる。例えば、“a sheet of paper”に関する情報をカードで生徒に与え、それぞれの生徒が与えられた情報を伝え合う。お互いにメモを取りながら情報をまとめ、何についての説明かを考えさせる。その上でまとめた情報を基に、ペアやグループごとで“a sheet of paper”の説明を完成させ発表を行う。

【生徒に与える情報の例】

A It is usually made from wood. These days, computers, cellphones, and other electronic devices are taking place of it. Some say it is a good trend to save trees on the earth.

B It was invented thousands of years ago. Only rich people could use it long ago, but now you can find it everywhere: in your room, in a classroom, or in an office.

C It is flat, smooth, and very thin and has a rectangular body. It can be used in many ways. You may use it to leave a message for someone, or children may fold it into the shape of an airplane.

D It can be used in various kinds of products. For example, it is used to make books. Although more and more people come to read books with computers, there are still people who like the smell and feel of it.

【a sheet of paper の説明の例】

Paper was invented thousands of years ago. It was made from wood and can be used in many ways: to leave a message for someone, to make a paper airplane, or to make books. Today, electronic devices are taking place of it, but there are people who like the smell and feel of paper.